

その他の材料を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
1999	3	21 ～ 22	2名で壁の養生材の撤去作業を開始し、ベニヤ壁に立てかけてあったパーティションの部材を移動しようとしたときに、ボードが倒れかかり2名では支えきれないため、1名は退避したが1名は転倒し、コンピュータ搬入用に設置したスロープの角に頭部を強打した。	50101	5	100 ～ 299
1999	3	16 ～ 17	海底に仮置きしていた異形ブロックを予定箇所へ移動させため、一旦海底から引き揚げてクレーン台船上に置き、次いで台船上で移動させようとして吊上げたときに突然ブロックが3つに割れて落下し2名が別々のブロックの下敷きになった。	30111	4	10～ 29
1999	4	13 ～ 14	原料混合装置内で3名の労働者が装置壁面に付着した原料を落とす作業を行っていたときに、壁面から推定量3～5トンの原料が落下したため、1名が死亡した。	11001	4	300 ～
1999	10	10 ～ 11	地下貯水タンク建設工事において、U型コンクリートブロックにはめ込み立てかけてあった沈殿池と貯水タンクを仕切るコンクリート製の越流壁(高さ2.05m幅2.58m厚み20cm重量約2.5t)が倒壊し、近くでモルタル敷ならし作業をしていた者が押しつぶされた。	30199	5	1～9
1999	11	19 ～ 20	炭酸ガス吸収塔内部の充填物の入れ替えの作業中、半円状の充填物が塔の上部で詰まって取れなかったため下部のマンホールから入ったところ、充填物(約6t)が崩れ落ちてきた。	30302	5	30～ 49
2000	4	13 ～ 14	家庭用浄水機の最終水漏れ検査のため、浄水機の出水側ホースを折り曲げ注水側ホースから圧縮空気(7kg弱)を吸入していたところ、突然、浄水機の濾過材の入った樹脂製カートリッジ(重量3kg)が接合部から外	11709	6	10～ 29

			れて頭に激突した。			
2000	7	11 ～ 12	食品工場の製造プラント設置工事で、外壁となるPC板(推定質量900kg)の取り付け、位置調整を行っていたときにPC板が倒れ下敷きになった。	30201	5	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	工事に使用する台船(浮クレーン)を誘導するため、台船に取り付けられたドラムからワイヤロープを引き出して約100m離れた海上のブイに取り付けようとロープをチャッカー船(作業船)で引いたところ、急にロープが緊張した状態となってチャッカー船の運転者を跳ね飛ばした。	30111	6	100 ～ 299
2001	1	11 ～ 12	簡易水道工事において、取水ボックス底部のコンクリートを打設後、降雪及びコンクリート養生のため上面をビニールシートで覆い、内部に練炭コンロを3個つり下げて作業を終了したが、その夜現場の様子を確認しに行ったまま連絡が取れなくなり、翌日、取水ボックス内で死亡していた。	30110	12	1～9
2001	5	23 ～ 24	ウレタンブロックの裁断作業中、天井クレーンで運ばれ段積されていたウレタンブロックが崩れ下敷きになった。	10806	5	1000 ～ 9999
2001	6	10 ～ 11	個人住宅の基礎工事で地中に埋め込むための電柱(長さ3.5mに切断したもので質量約500Kg)を10tトラックで運搬して来て、この荷を降ろすため、トラック側面のアオリのロックを外したのち、アオリが開かないように締め付けていたワイヤロープを緩めてトラックのロープ掛けから外したところ、アオリが開いて電柱が荷台から崩れ落ち下敷きになった。	30199	5	1～9
2001	7	16 ～ 17	穀物(トウモロコシ粉)の貯蔵サイロ内部において、穀物の出荷準備作業を行っていて穀物に埋まった。	80401	5	1～9
2001	1	9 ～	被災者は、5色印刷機給紙部のフレーム内に入り、エアガンで検知器の目詰まり等を清掃して給紙部から出てきたところで倒れ、印刷機の1.65m後の位置に積まれていた紙(幅0.85m、高さ1.36m)で頭を	10701	3	50～ 99

		10	打った。			
2001	9	9 ～ 10	本災害は、飼料製造施設の原料(油粕)貯蔵用サイロ(高さ36m、径8m)において、サイロ内に入って固まった原料(ハッチより21m下)を鍬を使用して階段状にして取り崩しながら原料が流れ落ちている穴に原料を投入していたところ、前方の高さ2mの固まった原料が突然崩れて巻き込まれ穴に落ちて原料に埋没した。	50202	5	1～9
2002	3	13 ～ 14	道路排水施設工事において、U字側溝（長さ4m、重さ2 t）の高さ調整のため車両積載型クレーン（2.93 t）に戻す作業を行っていたときにU字側溝が落下し、吊荷の下で誘導していた者が大腿部から腰にかけて下敷きになった。	30209	4	1～9
2002	3	10 ～ 11	地上29階の建物の7階で雑壁のPC板（重さ0.9 t）を設置するため、PC板の両側面にあるアイボルトにシャックルをかけチェーンブロック（1.5 t）2基で少しずつ起こしていたときに、突然アイボルトが根元から折れて作業者に激突した。	30201	5	10～ 29
2002	9	17 ～ 18	工場内で、20枚ごとに鉄製の枠に入れて鉄柱に立て掛けて保管されていた大板ガラス3枚を自動ガラス切断機で切断するため、鉄製の枠の木製の蓋を取り外したところ、鉄製の枠内の大板ガラス20枚（約800kg）が蓋とともに倒壊してきて下敷きになった。	80209	5	100 ～ 299
2002	12	11 ～ 12	タンクローリーのタイヤに空気を充填するときに、タイヤホールを固定せずに作業を行ったところ、ホイールが1cm歪んでいたため圧縮空気が漏れ出しその反動でタイヤホイールが飛んで作業者に激突した。	11701	4	10～ 29
2002	11	16 ～ 17	染色した綿織物を抜色するため、塩素酸ナトリウムを主成分とする抜色剤を塗布して蒸し器に入れ加熱していたときに爆発火災が発生し火傷を負った。	10204	16	1～9
2003	2	2 ～	美容院の建築工事において、基礎工事用の杭（コンクリートパイプ、長さ9m、直径30cm、質量1t）を10tトラックから荷卸しするため、杭をトラック荷台上の枕木上を転がしていたところ、杭が激突したため	30199	6	10～ 29

		3	にバランスを崩し、高さ1mの荷台上から転落し、その直後に杭が落下してきて下敷きになった。			
2003	5	16 ～ 17	鉄骨造ビルの解体工事において、2階梁付近の外壁材（石材90cm×60cm×2cm、質量26.8kg）が落下し、地上にいた作業者の頭部に激突した。	30209	4	10～ 29
2003	8	14 ～ 15	工場3階において、5mm程度に固まった顔料を粉砕機で粉末にする仕上げ作業中に、機械下部の粉砕処理が終了した粉末を入れる木綿製袋が黒煙をあげながら燃え始め、火災報知器のサイレンを聞いて現場の確認を行っていた工場長が煙にまかれて死亡した。	10801	16	30～ 49
2003	11	10 ～ 11	ベークの材料（1m×2m、50kg位）板を滑らせて移動しているときに、バランスを崩して尻から転倒した。	10805	2	10～ 29
2004	11	11 ～ 12	手押し台車にガラス板（330kg）を載せて工場入口のスロープ上を移動中、ガラス板の束の重量により台車の重心が後方に掛かったため台車が転倒しガラス板の下敷きとなった。	10902	7	1～9
2004	6	11 ～ 12	屋外資材置き場に搬入された一般工作機械の部品を各加工工程に振り分けるための段取作業において、作業場所から転落した。	11301	1	30～ 49
2004	5	16 ～ 17	染色工場の反物を貯蔵する穴入れ場にて、反物をピットに入れる作業をしていたところ、倒れて動けなくなったところに、穴入れパイラーによって自動的に反物（重さ約100kg）に覆われ、圧迫された。	10204	90	50～ 99
2004	8	11 ～ 12	家畜飼料の原料となるふすま（粉砕した小麦の皮）を貯蔵している原料タンク下部からのふすまの排出量が少なかったため、点検のためタンク内に入ったところ、ふすまの中に生き埋めとなった。	170209	5	10～ 29
2005	7	18 ～ 19	車庫内でダンプトラックのパンク修理を行っていたところ、突然タイヤが破裂した。	40301	15	10～ 29

2005	5	0 ～ 1	資材置き場で、不安定な状態となっていたU字ブロック（重さ460kg）に近づいたところ、当該ブロックが崩れ下敷きとなった。	10901	4	50～ 99
2005	11	14 ～ 15	ガラス管の製造ラインのガラス管を一定の長さに切断する切断機付近で、飛散したガラス片を清掃する作業中、ガラス管又はその破片により被災した。	10902	8	50～ 99
2005	12	16 ～ 17	廃材である陶器製の洗面台を不燃物のコンテナに投入しようとしていたところ、当該洗面台が割れ、その破片で被災した。	30202	8	10～ 29
2005	11	4 ～ 5	切断したガラス板を立てかけた台車を動かしていたところ、台車が横倒しになり、被災者が台車の側で転倒した。	10902	5	50～ 99
2006	6	15 ～ 16	フォークリフトのフォークで吊ったフレコンパックに入れた汚泥（セラミック汚泥）を汚泥ピット（2.8m×3m・深さ1.86m、災害発生時はほぼピット上部まで汚泥が入っていた）に入れる作業を行っていた被災者がピット内で汚泥に埋まった状態で発見された。	10804	4	30～ 49
2006	10	17 ～ 18	粉の乾燥調整施設において、被災者はサイロ（粉殻庫）内の粉殻の片寄りを調整するために1人でサイロ内へ入ったが、その後死亡状態で発見された。	170209	5	300 ～ 499
2006	12	14 ～ 15	被災者ら2名が、上段2つ、下段2つ、計4つを1セットとして製品置場に仮置きしているコンクリート製の土留用U字溝（1つあたり2000×1280×1045mm、1.23トン）を、つり上げ荷重2.8トンのトラッククレーンを用いて、同クレーンの荷台に積み込んでいた。被災者（オペレーター）が、上段のU字溝1つをつり上げ旋回したところ、上段のもう1つのU字溝が崩れ落ち、被災者を直撃した。	40301	4	1～9
			本社事務所の解体工事において、破碎機で解体した屋根や壁材を解体中の建物の外に掻き出している最中、待機しているはずの被災者が不			

2007	2	12 ～ 13	意に破砕機の前を横切り解体中の建物内に立ち入った。被災者が解体中の建物に立ち入っていたところ、2階西側の内壁のモルタル材の一塊約21kgがはがれ落ち、約6mの高さから落下し、被災者にあたった。	30309	4	1～9
2007	5	14 ～ 15	飼料貯蔵用のサイロ内の底部で、内壁に張り付いている大豆油かすの小山状になった堆積物を棒状の道具を用いて掻き落としていたところ、堆積物が突然崩壊し、生き埋めとなった。	10109	5	30～ 49
2008	6	14 ～ 15	工場のシャットダウンの準備のためボイラー用固形燃料の入ったホッパー（高さ20m、縦5.6m、横3m）の内壁に固まった燃料を手作業で落とす作業をしていた。作業はホッパー壁面に単管を上下2本通し、壁面の内外で建地をクランプ留めし、ホッパー内下側の単管に立ち上側の単管を安全带取付設備として鋏等で固形燃料を崩していたところ、上から固形燃料が落下して被災者に激突し建地クランプとも落下した。	30309	4	10～ 29
2008	8	15 ～ 16	産業廃棄物の焼却炉の排煙ダクト内に付着したすすの除去掃除中、ダクトに付着した重さ約60kgのすすが被災者の上に落ちた。	10801	4	100 ～ 299
2008	12	11 ～ 12	マンホールの据え付け工事において、一旦はマンホールを据え付けたが、当初の計画における掘削深さよりもマンホールが高くなっていたため、再度、掘削する必要が出た。既に据え付けたマンホールをドラグ・ショベルで搬出した時、マンホールの接着部分が外れ、2段目のマンホール管が傾いてマンホール管内にいた被災者が2段目と3段目の間にはさまれ死亡した。	30110	4	10～ 29
2009	3	15 ～ 16	工場解体に伴う引越作業のため、作業員2人で、軽トラックの荷台に荷（空間を仕切る板及び板ガラス）を載せて運搬中、軽トラックが市道を曲がった時に速度低下のためギアを一速に入れたところ荷が後方に倒れ、この荷が荷台後部に乗っていた被災者に当たり、被災者は荷台から転落した。	80209	1	1～9

2009	5	10 ～ 11	被災者は橋型クレーン（つり上げ荷重15t）でコンクリートパイプ（外径70cm×長さ9.0m、重量4.4t）2本を運搬する作業を行っていた。被災者と同僚1人が当該パイプの玉掛けを行い、つり上げた状態で仮置中の別のコンクリートパイプ（外径80cm×長さ9.0m、重量5.58t）の輪止めをしようとしたところ、つり上げていたパイプとの間にはさまれた。	10901	7	30～ 49
2009	8	8 ～ 9	新築家屋の建築材料の石膏ボード（約900×1800×10、1枚約10kg）をトラックの荷台から手作業で荷下ろし中、荷台から滑り落ちたボードが被災者に当たって後方へ転倒した。	40301	4	10～ 29
2009	11	10 ～ 11	被災者は、一般木材住宅建築工事現場にトラックで石膏ボード約60枚を搬送した。現場では移動式クレーンの運転士が石膏ボードを公道上に仮置きされていた木材の上に荷下ろし仮置きした。その後、被災者が当該石膏ボードを上から1枚ずつ手で下ろして移動させていたところ、3枚目で石膏ボードが崩れて下敷きとなった。	40301	5	30～ 49
2009	12	13 ～ 14	生コンプラント内に設置された貯水タンク（高さ12m強、直径3m弱、下部がホッパー状）内にたまった生コンのノロを除去しようと、貯水タンク内に作業員2人が入ったところ、内1人がノロ上で硬化していない部分に足を取られ、転倒、そのままノロの中に沈んだ。約3時間後に救出されたが、死亡が確認された。	40301	1	10～ 29
2009	4	10 ～ 11	RC造6F店舗兼住宅用ビル新築工事現場において、縦雨樋（長さ4m、径10cm、重量約10kg）を繊維編みつけ紐で括り付け、屋上（高さ約20m）から外壁と足場の隙間を通し、人力でつり下ろしている途中、高さ12m地点で雨樋が紐から外れ、高さ3.4mの2段目足場で縦雨樋受け取りのため待機していた被災者を直撃した。	30203	4	1～9
2009	9	11 ～ 12	被災者1人で、塩ビ棚に立て掛けられていた塩ビ管3本（径300mm、長さ4m、重量55kg）を1本ずつ手作業で横にして、フォークリフトの爪に乗せる作業をしようとしていた。1本目を横にしようとした時、3本がほぼ同時に被災者に倒れかかり、被災者はコンクリートの地面に強	80109	5	10～ 29

			打した。			
2009	2	8 ～ 9	製材所にて、被災者は木材チップをトラックの荷台に積み込むためサイロ内で作業を行っていたが、同製材所の作業者が作業時間の長さを見を不審に思い状況を見に行ったところ、サイロ内で木材チップの上うつ伏せの状態であった被災者を発見し、搬送先の病院で死亡した。	40301	90	10～ 29
2010	2	8 ～ 9	建設会社のヤードで、型枠材料をつり上げ荷重2.9tの車両積載型トラッククレーンでつり上げ、トラック荷台に積み、被災者がワイヤーのフックを外して、荷台から降りようとしたところ、1.6m×6.3mの型枠材がバランスを崩して倒れ、被災者に激突、型枠材の下敷きになったもの。	30201	5	10～ 29
2010	7	9 ～ 10	サイロ内にたい積しているコンスターチのダストを搬出するため、同サイロ内に入槽し、同コンスターチを棒によって掻き出し作業中、サイロ内壁に付着していたダストが崩落し、崩落したダストに埋没した。	30309	5	1～9
2010	7	15 ～ 16	被災者はパンクしたダンプトラック（10t）のフロントタイヤ（外径1010mm、幅255mm）の修理のため、車庫内で人力でタイヤレバーにより鋼製のホイールにタイヤを組み込み、コンプレッサーにより空気を充填していたところ、ドーンという音とともに空気がタイヤとホイールの隙間から漏れて、タイヤとホイールが真上に飛び上がり、被災者の顔面と頭部を直撃し、6.9m上の天井に当たり落下したもの。なお、タイヤは破裂していなかった。	40301	4	10～ 29
2010	11	7 ～ 8	産業廃棄物の廃プラスチック（殆どが分別されたビニール類）を傾斜コンベアーで搬送し、ホッパーにため、破碎機で破碎し、圧縮梱包する作業において、廃プラスチックが傾斜コンベアー出口で詰まったため、ホッパー内部にホッパー点検口から被災者2名が入り、詰まった廃プラスチックを取り除く作業をしていたところ、その大量の廃プラスチックが落下して被災者2名が埋まり、窒息死した。	150102	4	10～ 29

2010	11	7 ～ 8	産業廃棄物の廃プラスチック（殆どが分別されたビニール類）を傾斜コンベアーで搬送し、ホッパーにため、破碎機で破碎し、圧縮梱包する作業において、廃プラスチックが傾斜コンベアー出口で詰まったため、ホッパー内部にホッパー点検口から被災者2名が入り、詰まった廃プラスチックを取り除く作業をしていたところ、その大量の廃プラスチックが落下して被災者2名が埋まり、窒息死した。	150102	4	10～ 29
2011	8	8 ～ 9	電気炉のレンガ組立作業中、被災者他一名で電極ブロック（約63kg）を運搬中、バランスを崩し、電気炉内（足場としてベニヤ板が敷き詰められており、ベニヤ板までの深さが約1.3m）に電極ブロックごと墜落し、電極ブロックが被災者の顔面に激突した。	30302	4	10～ 29
2011	12	18 ～ 19	ごみ焼却施設の焼却炉内で、焼却炉内の散気管に付着したクリンカ（灰などの塊）の除去作業中、壁面のクリンカ塊が落下したことにより、被災者Aが死亡し、被災者Bが負傷（第5頸椎剥離骨折）したものの。	30302	90	1～9
2012	12	16 ～ 17	被災者は+ x v ん、¥1本社工場内において、コンクリート製品（L型擁壁、約460kg）を天井クレーンを使用し反転機に載せ、吊り具を外しクレーンを横行させた後、反転機を作動させ反転させようとしたところ、当該製品が倒れ、当該製品と反転機の間にはさまれた。	10901	5	10～ 29
2012	8	7 ～ 8	運搬先において、トレーラーから電柱を荷下ろしする作業を被災者単独で行っていた。荷下ろし方法は、人力作業であり、一端を固定したワイヤを電柱に巻きつけ、バールを使って少しずつ地面に下ろす方法で、被災者は、トレーラーの荷台に積んである電柱の上で作業をしていたところ、電柱2本とともに地面に落下し、その後落下してきた3本目の電柱と先に落下した電柱の間に身体が挟まれ、死亡した。	40301	6	10～ 29
2012	5	13 ～	事業場敷地内製品置き場において、天井クレーン（つり上げ荷重10t）を用いて3段に積まれたコンクリート杭（長さ5m、直径0.8m、重さ約3.2t）を移動させる際、被災者が3段目に2本置いていたコンクリート杭のうち1本に玉掛けをし、つり上げたところ、もう1本のコン	10901	4	10～ 29

		14	クリート杭が被災者の方に動き出し、被災者は2段目上から地面に飛び降りたが、被災者の上にコンクリート杭が直撃した。			
2013	8	13 ～ 14	被災者2名は、脱穀後の麦殻を処理するため、集塵庫の排出口から麦殻を1階のコンテナに流し込む作業をしていたところ、排出口からの出が悪くなったため、2階の集塵庫内に堆積した麦殻に上がり底部の排出口に詰まった殻を木製の棒でかき落そうとした際、麦殻（付近の深さ約2.5m）の中に転落して全身が埋没し2名とも窒息死した。	10109	1	10～ 29
2013	8	13 ～ 14	被災者2名は、脱穀後の麦殻を処理するため、集塵庫の排出口から麦殻を1階のコンテナに流し込む作業をしていたところ、排出口からの出が悪くなったため、2階の集塵庫内に堆積した麦殻に上がり底部の排出口に詰まった殻を木製の棒でかき落そうとした際、麦殻（付近の深さ約2.5m）の中に転落して全身が埋没し2名とも窒息死した。	10109	1	10～ 29
2013	7	7 ～ 8	廃材等の置場内において、機体重量が約2.3トンのドラグショベルのショベルを解体用つかみ機のアタッチメントに付け替えた車両系建設機械を用い、木造新築工事で発生した廃棄物を、積載荷重が3トンのダンプトラックへ積み込む作業中、この車両系建設機械が回転した際、ダンプトラックの廃棄物の上に置かれた合板上で高さが1.91メートルの箇所、保護帽を着用せずに作業していた労働者が土の地面に頭部から墜落した。	150102	1	10～ 29
2013	4	11 ～ 12	サイロ内の清掃作業にあたり、サイロ内に残っていたトウモロコシの粉末を掻き出す作業中、トウモロコシの粉体が崩れ、トウモロコシの粉に埋まった被災者は身動きが取れなくなり、窒息死した。	150109	5	10～ 29
2014	10	14 ～ 15	ガラス8枚、鏡2枚の計10枚を入れた鉄枠パレットを柱に立てかけ仮置きしていた際、被災者がパレットの蓋枠のロックを外したところ、全てのガラスが倒れ、被災者が下敷きになった。	80209	5	1～9
2014	8	14 ～	フォークリフトの整備作業に伴うホイール交換作業中、同僚がタイヤを立てた状態で支え、被災者がタイヤに空気を充てんしていたところ	80209	15	10～

		15	ろ、タイヤが破裂し、破裂により飛来したタイヤの部品が被災者の胸部に当たり、死亡した。			29
2015	10	17 ～ 18	工場敷地の製品置場で被災者が単独でコンクリート製品の整理作業中、コンクリート製品の上に3枚重ねの別の製品（1枚361kg）をフォークリフトを用いて積み上げ、フォークリフトを降りて、その下方で何らかの作業を行っていたところ、突然はいが崩壊して、上に積み上げた3枚の製品が被災者の頭部を直撃した。	10901	5	10～ 29
2015	5	10 ～ 11	製材所において、サイロから大型のトラック（14t）の荷台におがくずを1人で積載していた際、トラックの荷台上でおがくずに埋もれていた被災者を発見した。その後、病院で死亡が確認された。	40301	5	1～9
2015	3	17 ～ 18	繊維機械である1台のワインダー付近から出火。近くにいた被災労働者3名が初期消火を行ったところ一旦火が収まった。全員が工場を待避した後に、死亡した被災者が消火状況を確認しに行ったところ再び出火し、消火活動を試みたが手に負えず、一酸化炭素中毒により逃げ遅れて焼死した。	10203	16	30～ 49
2015	6	0 ～ 1	製紙工場内において、1人（運転手）でトレーラの荷台に設けられたスライドデッキ装置を用いて同荷台に積載したバーク（樹木の皮）を自動で地面に下ろす作業を行っていたところ、地面上にてバークに埋もれていた被災者を発見した。その後、病院にて死亡が確認された。	40301	5	10～ 29
2016	11	11 ～ 12	トラック荷台に2段に積まれていたU字溝をドラグショベルでつり上げ荷卸しをするため、被災者は助手席側の荷台端部付近で玉掛け作業をしていた。1段目の4本の上に端太角を敷き、その上に3本のU字溝が置かれており、運転席側のU字溝を下した後、真ん中のU字溝を持ち上げた際、端太角の運転席側が助手席側のU字溝の重みで浮き上がり、助手席側のU字溝が傾いたため被災者が落下、その上に傾いていたU字溝が転がり落ちた。	30202	5	1～9
			災害発生事業場に設けられている焼却設備の焼却炉内火格子架台の補修作業を請負事業場の労働者が溶接による修繕作業をしゃがみ込む姿			

2016	10	13 ～ 14	勢で行っていたところ、約2.5m上部にある放熱ダンパーの耐火材の一部約20kgの塊が肌落ちし、被災者の約2m上方に設けられた飛来落下物防止用の敷設養生材、9枚の鋼製布板（養生面積約2.5m×3.0m）の一枚を突き破り、被災者の後頭部から肩口にかけて当たったことにより死亡した。	11301	4	1～9
2016	1	1 ～ 2	シート状の段ボールを積み上げて重り（640kg）を載せ、蒸気を吹き付ける作業をしていたところ、段ボールが倒壊し、重りの下敷きになった。	10602	5	50～ 99
2017	5	6 ～ 7	被災者はフォークリフトを運転し、幅1925mm、奥行800mm、高さ480mm、重量630kgのガードレール土台用のコンクリート二次製品を5段（約280cm）に積み上げた後、フォークリフトを降りて積んだ製品の状態を確認しようと製品の前に移動したところ、製品が倒壊して最上部（5段目）の製品とフォークリフトの胴体部分との間に頭を挟まれ死亡した。	10901	5	1～9
2017	2	14 ～ 15	古民家の再生工事現場において、玄関土間の壁に立て掛けられた資材（石膏ボードとベニヤ板）の中からベニヤ板を取り出そうとした大工を補助するため、被災者が立て掛けられた石膏ボード（1枚14キ口）14枚を支えていたところ、支えきれずに倒れ、頭を玄関框部と石膏ボードの間に挟まれた。	30202	5	1～9
2020	9	0 ～ 2	担当現場の職人から当日昼ごろ、ALC板（2m×60cm×4cm、重量約25kg）と呼ばれる軽量気泡コンクリート板7枚を2日後までに現場へ運搬するよう依頼を受けた被災者が、資材置き場に赴きALC板を搬送しようとした際、崩れ落ちたALC板20枚の下敷きとなったもの。2日後に音信不通であることから他従業員が確認したところ、ALC板の下敷きになり死亡している被災者を発見した。（被災時間不明）	30201	5	1～9
		10	被災者は、移動式クレーンで移動されたヒューム管（直径180cm、内径150cm、幅78cm、重量1.3トン）の玉掛け用具を			

2020	4	～	外し、ヒューム管を保護するためのカバーを外そうとした際に、同	30110	5	1～9
		12	ヒューム管が倒れてきて、その下敷きになり、頭部挫傷のため死亡した。			

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_05.html